

ニーデルハウゼン博士著『総覧：東欧ロシア史学史』輪読会の趣旨

ニーデルハウゼン博士はチェコスロヴァキア第一共和国のブラチスラヴァに生まれ、ナチス台頭期にハンガリーに亡命した、20世紀最大の歴史家のひとりです。

本書はロシア・東欧地域10か国の史学発達史を原典から読み進め、博士が同学の士にむけて書下ろしたものです。この邦訳出版に際しては、日本人に向けてハンガリー史学史と20世紀史学史も加筆してくださいました。

分担執筆するのではなく、研究者が一人でなぜこの偉業に挑んだのでしょうか。当該地域を個々の民族や国家に限って研究するだけでは見えない、地域全体の有機的な史学発達史が時間と空間をむすんで現れることを博士は示しました。恐らく今後もこのような業績は生まれまいでしょう。

本書は世界中のロシア・中東欧研究者にとって意義のある業績です。ただし原文がハンガリー語だという制約から、本邦訳が初の外国語による出版であり、その実現には日本の若手研究者たちの協力と切磋琢磨の長い年月がありました。

中・東欧、ソ連ロシア研究に携わるみなさんに広く輪読会への参加を募ります。これは同時に、ヨーロッパ史研究をめざす日本人が、ヨーロッパ歴史学研究における常識を獲得することも目的としています。また、日本人の歴史認識や地域認識において、ともすれば日本中心主義に陥りやすい陥穽を克服して、広い視野から国民史をとらえ直す視角を与えてくれます。

輪読会の開催日程につきましては、その都度、本ホームページでお知らせします。

2014年5月

家田 修